

メール de EDI “e-エクスプレス” (Ver8.5)

メールハンドリング自動化ソフト “Mail Connect”(Ver4.5)

オペレーションマニュアル



日本ソフトウェアエンジニアリング株式会社

目 次

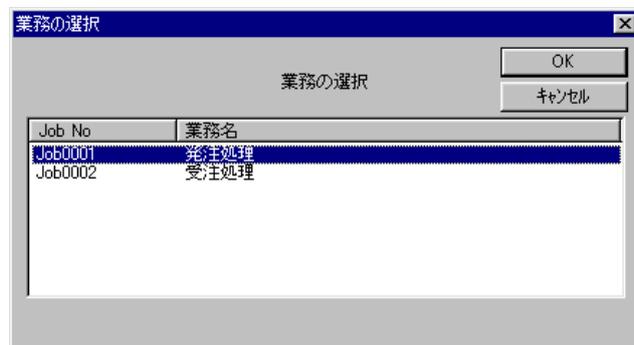
1.	業務の選択.....	2
2.	送信処理.....	3
	送り方3つの方法.....	3
	送信処理.....	5
	自由送信の送信方法.....	6
	相手担当者にメールを送りたいとき.....	7
	あらかじめ登録された電文を自動的に送る方法.....	7
	任意の電文をユーザーが作成し相手担当者にメールを送る方法.....	8
	任意の電文をユーザーが作成しEDI用アドレスにメールを送る方法.....	11
	(MailConnect のみ)	
3.	送信ログ照会.....	13
4.	着信データ取込み処理.....	14
5.	受信ログ照会.....	15
6.	他のプログラムからの起動方法 (e-エクスプレス)	16
	送信処理.....	16
	送信プロセス戻り値一覧表.....	17
	受信処理.....	18
	受信プロセス戻り値一覧表.....	19
	メニュー画面表示.....	19
	送信ログ表示処理.....	19
	受信ログ表示処理.....	19
	システムログ表示処理.....	19
	アドレス帳 CSV エクスポート.....	20
	アドレス帳 CSV インポート.....	20
	ログの CSV エクスポート.....	21
	サンプルコーディング.....	26
7.	他のプログラムからの起動方法 (MailConnect)	27
	送信処理.....	27
	送信プロセス戻り値一覧表.....	28
	受信処理.....	29
	受信プロセス戻り値一覧表.....	30
	メニュー画面表示.....	30
	送信ログ表示処理.....	30
	受信ログ表示処理.....	30
	システムログ表示処理.....	30
	アドレス帳 CSV エクスポート.....	31
	アドレス帳 CSV インポート.....	31
	ログの CSV エクスポート.....	32
	サンプルコーディング.....	33

1. 業務の選択

業務が複数存在するとき以下の画面がでます。

業務を選んでください。

業務が単一の時この画面が表示されません。

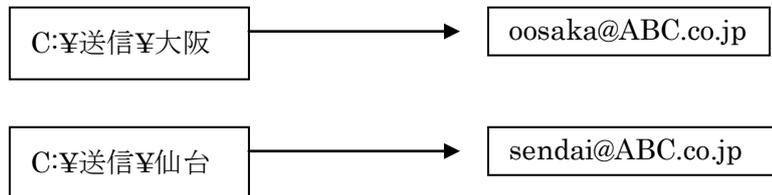


2. 送信処理

<送り方3つの方法>

送り方には、以下の3つの方法があります。セットアップの方法はセットアップマニュアルをご参照ください。

(1) 送信フォルダー毎に相手先を固定する方法



送信フォルダーにある全ファイルを指定された相手先におくります。

送り先の数だけフォルダー数が必要です。

送信フォルダー内にフォルダーがあるとき

e-Express : フォルダごと圧縮し全ファイルを送ります。着信側でフォルダ構造を再現します。(最下位のフォルダ及びファイルまで)

MailConnect : フォルダ内の全ファイルを一括添付します。

直下のフォルダ内のファイルのみ対象とし、下位フォルダは無視します。

(2) 1つの送信フォルダーから全相手先に送信する方法

送信環境の設定で“ファイル名により相手先を決定する”と

指定したフォルダのファイルはファイル名により相手先が決定されます。

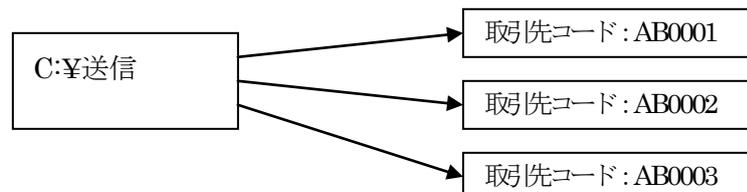
1. 取引先コードをファイル名につける方法

ファイル名の先頭_ (アンダーバー) までを取引先コードとみなします。

(例) 取引先コード AB0001 への注文書

AB0001_chuumon_00120465.dat

アドレス帳に登録された取引先コードから相手EDI用メールアドレスを検索し送信します。



2. 相手アドレスをファイル名につける方法

ファイル名の先頭に()で囲んだメールアドレスをつけます。

(例) (aaaaaaa@bbb.co.jp)chuumon_00120465.dat

このアドレスはあらかじめアドレス帳に登録しておく必要があります。

このフォルダー内にフォルダーがあるとき、上記命名ルールに従いフォルダーごと全ファイル送ります。(サブフォルダーを含む)

(3) マニュアルで自由に相手先に送る方法 (自由送信)

マニュアルで送信ファイルおよび送信先を選択し送信します。

送信ファイルの指定はファイルダイアログ、送信先の指定はアドレス帳ダイアログでおこないます。送信フォルダーの設定は不要です。

ファイルダイアログでフォルダーを指定した時フォルダーごと全ファイルを送ります。(サブフォルダー以下のすべてのファイルを送ります。)

(注1) 上記3つの方法は組み合わせて自由に利用することができます。

<送信処理>

自由送信： 任意のファイルを自由に任意の相手先に送信します。

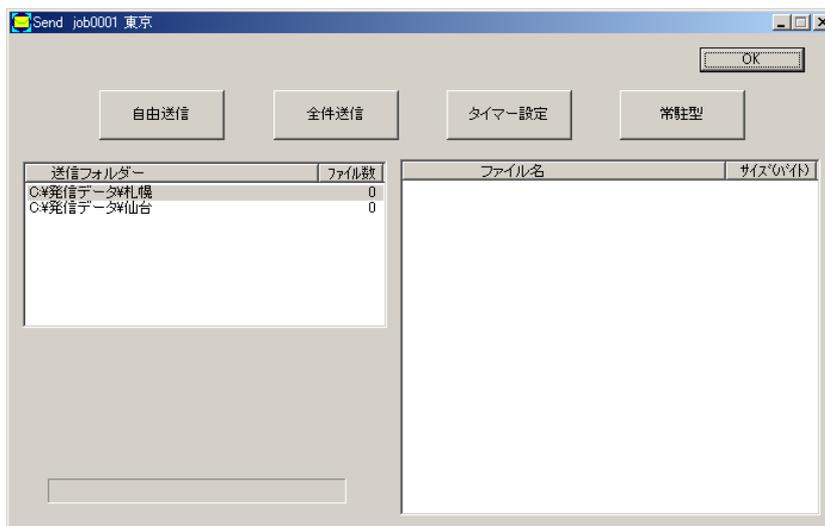
全件送信： 送信フォルダー内の全データを送信します。

タイマー設定： 設定された時刻に全データを送信します。

その後毎日同時刻に実行するをチェックすると毎日同時刻に実行されます。

常駐型： 送信タスクが常駐し設定のn分毎に送信フォルダーをスキャンしデータがあれば送信します。

0を設定すると、リアルタイム待受けモードになります。送信フォルダーにデータが投入されると、即座に送信処理をおこないます。

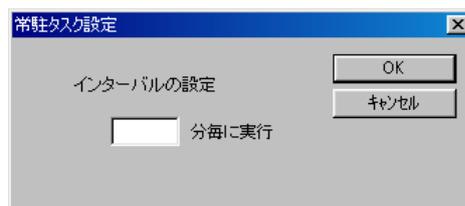


- ・ 発信フォルダーをクリック（選択）すると、フォルダー内のファイルが表示されます。
- ・ 発信フォルダーをダブルクリックすると、エクスプローラが呼ばれ当該フォルダーが開かれます。
- ・ ファイル名をダブルクリックすると、ファイルが開かれます。

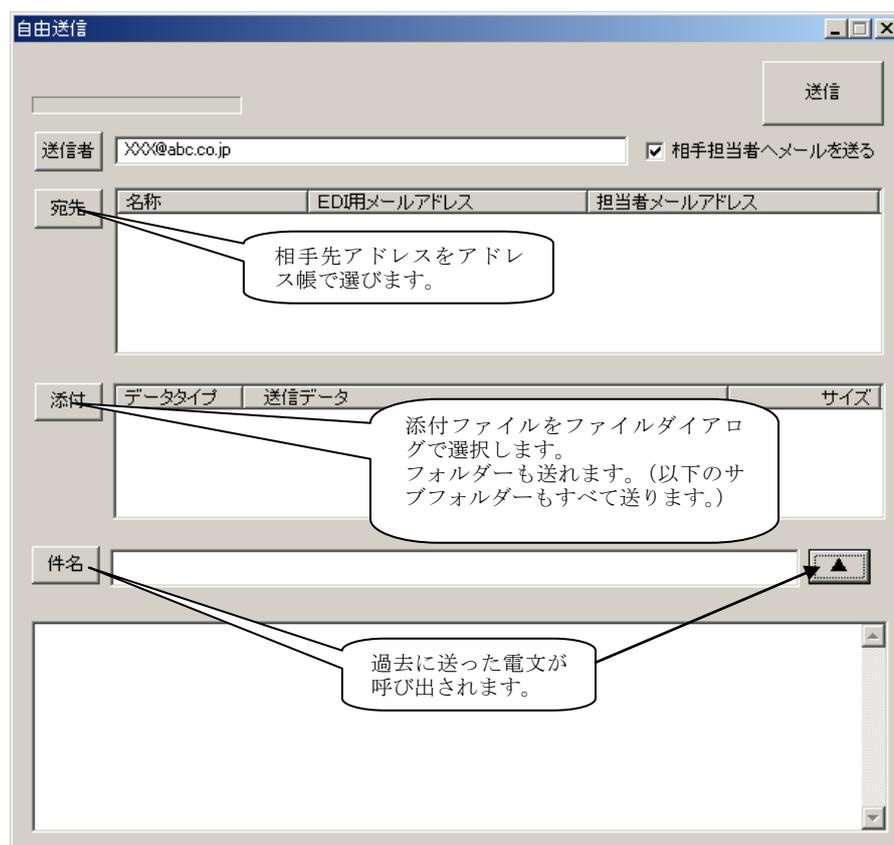
タイマー設定



常駐型設定



<自由送信の送信方法>



“相手担当者へメールを送る” チェックボックスをチェックすると同じ電文がアドレス帳の相手担当者に送られます。

- ・ 複数登録されていると全員に送ります。
- ・ 添付ファイルは発信しません。

＜相手担当者へのメールを送りたいとき＞

(1) あらかじめ登録された電文を自動的に送る方法

＜送信環境に設定します＞

環境設定→送信環境→送信フォルダー設定

相手担当者へのメール：“Y”

メッセージの編集（フォルダー毎に編集できます。）

（注）セットアップマニュアルをご参照ください。

- ・ 送信時自動的に送られます。
- ・ アドレス帳の相手担当者に送られます。
- ・ 複数登録されている時、全員に送ります。
- ・ 相手担当者が登録されていないとき、送られません。
- ・ 添付ファイルは付けられません。

(2) CCで同じ電文を送る方法（メールコネクトのみの機能です）

＜送信環境に設定します＞

環境設定→送信環境→送信フォルダー設定

相手担当者へのメール：“CC”

（注）セットアップマニュアルをご参照ください。

- ・ 送信時 CC(Carbon Copy) で送られます。
- ・ アドレス帳の相手担当者に送られます。
- ・ 複数登録されている時、全員に送ります。
- ・ 相手担当者が登録されていないとき、送られません。

(3) 任意の電文をユーザーが作成し相手担当者にメールを送る方法

以下のファイルを送信フォルダーに入れ送信処理を行います。

“EDI_PRO_MAIL_” で始まるファイル名は相手担当者へのメールと判断します。

アドレス帳に登録されている担当者メールアドレスに送信されます。

ファイル名： EDI_PRO_MAIL_XXXXXXXX.txt

大文字、小文字区別なし

XXXXXXXX は自由

ファイル名によりアドレスを決定すると指定されたフォルダーのとき

(EDI用メールアドレスが ALL になっている) では以下のファイル名とする。

NNNNN_EDI_PRO_MAIL_XXXXXXXX.txt

NNNNN は取引先コード

大文字、小文字区別なし

XXXXXXXX は自由

形式： テキスト形式

フォーマット：

<Subject>

必須です。1行しか入力できません。

<Body>

必須です。

<Attachment>

添付ファイルをフルパスで指定します。

必要の応じて記入してください。

何件でもOKです。必ず改行してください。

送信後、ファイルを消去したいとき /D を付けてください。

サンプル

C:¥temp¥testdata.dat/D

大文字小文字の区別はありません。

任意の相手にメールを送りたい時

通常はアドレス帳に登録された“担当者メールアドレス”にメールをおくりますが、任意のアドレスにメールを送りたいとき、以下のように<Subject>の前に<To>を指定してください。

また、CC(Carbon Copy), BCC(Blind Carbon Copy), Reply-To を指定することもできます。

<To>

送信先メールアドレスを指定してください。

何件でもOKです。必ず改行してください。

<From>

通常は指定不要です。基本設定で設定されたメールアドレスが From になります。特別指定する必要があるときのみ使用してください。

名前<メールアドレス>形式を指定することもできます。

例：ABC 株式会社<xxxx@abc.co.jp>

<Cc>

CC を指定します。複数件指定する場合改行してください。

<Bcc>

BCC を指定します。複数件指定する場合改行してください。

<Reply-To>

基本設定で返信先が指定されていても、ここで指定した返信先が優先されます。一行しか指定できません。

<Subject>

必須です。1 行しか入力できません。

<Body>

必須です。

<Attachment>

添付ファイルをフルパスで指定します。

必要に応じて記入してください。

何件でもOKです。必ず改行してください。

送信後、ファイルを消去したいとき /D を付けてください。

サンプル

C:¥temp¥testdata.dat/D

大文字小文字の区別はありません。

サンプル

ファイル名： EDI_PRO_MAIL_ADC010_124-09268.txt

<通常>

```
<subject>
請求書をお送りします。
<body>
以下のとうりご請求書をお送りしました。
    ご請求書番号： 124-09268
よろしく、お願い申し上げます。
```

<添付ファイル付>

```
<subject>
請求書をお送りします。
<body>
以下のとうりご請求書をお送りしました。
    ご請求書番号： 124-09268
よろしく、お願い申し上げます。
<attachment>
C:¥temp¥file01.dat/D
C:¥temp¥file02.dat/D
```

送信後消去される

<任意の相手に送る>

```
<to>
aaa@abc.com
bbb@ccc.com
<subject>
請求書をお送りします。
<body>
以下のとうりご請求書をお送りしました。
    ご請求書番号： 124-09268
よろしく、お願い申し上げます。
```

<任意の電文をユーザーが作成し EDI 用メールアドレスにメールを送る方法>

(MailConnect のみ)

以下のファイルを送信フォルダーに入れ送信処理を行います。

“EDI_PRO_DATA_” で始まるファイル名は EDI 用メールアドレスへのメールと判断します。これは MailConnect のみの機能です。e-Express にはありません。
アドレス帳に登録されている EDI 用メールアドレスに送信されます。

ファイル名： EDI_PRO_DATA_XXXXXXXXX.txt
 大文字、小文字区別なし
 XXXXXXXXX は自由

ファイル名によりアドレスを決定すると指定されたフォルダーのとき
(EDI 用メールアドレスが ALL になっている) では以下のファイル名とする。

NNNNN_EDI_PRO_DATA_XXXXXXXXX.txt
NNNNN は取引先コード
大文字、小文字区別なし
XXXXXXXXX は自由

形式： テキスト形式

フォーマット：

<Subject>

必須です。1 行しか入力できません。

<Body>

必須です。

<Attachment>

添付ファイルをフルパスで指定します。

必要の応じて記入してください。

何件でも OK です。必ず改行してください。

送信後、ファイルを消去したいとき /D を付けてください。

サンプル

C:\¥temp¥testdata.dat/D

大文字小文字の区別はありません。

任意の相手にメールを送りたい時

通常はアドレス帳に登録された“EDI 用メールアドレス”にメールをおくりますが、任意のアドレスにメールを送りたいとき、以下のように<Subject>の前に<To>を指定してください。

また、CC(Carbon Copy), BCC(Blind Carbon Copy), Reply-To を指定することもできます。

<p><To> 送信先メールアドレスを指定してください。 何件でもOKです。必ず改行してください。</p> <p><Return-Path> <u>通常は指定不要です。</u>基本設定で設定されたメールアドレスが Return-Path になります。特別指定する必要があるときのみ使用してください。 メールアドレス ユーザーID パスワード 形式で指定します。 (1文字以上の半角スペースで区切ります。) ユーザーID パスワードは SMTP 認証が必要です。SMTP 認証を行わないときは不要です。 名前<メールアドレス>形式を指定することもできます。 例：ABC 株式会社<xxxx@abc.co.jp> UUUUUU PPPPPP UUUUUU はユーザーID PPPPPP はパスワードです。 <u>Pop before SMTP 認証には対応しておりません。</u></p> <p><From> <u>通常は指定不要です。</u>基本設定で設定されたメールアドレスが From になります。特別指定する必要があるときのみ使用してください。 名前<メールアドレス>形式を指定することもできます。 例：ABC 株式会社<xxxx@abc.co.jp></p> <p><Cc> CC を指定します。複数件指定する場合改行してください。</p> <p><Bcc> BCC を指定します。複数件指定する場合改行してください。</p> <p><Reply-To> 基本設定で返信先が指定されていても、ここで指定した返信先が優先されます。一行しか指定できません。</p> <p><Subject> 必須です。1行しか入力できません。</p> <p><Body> 必須です。</p> <p><Attachment> 添付ファイルをフルパスで指定します。 必要の応じて記入してください。 何件でもOKです。必ず改行してください。 送信後、ファイルを消去したいとき /D を付けてください。 サンプル C:¥temp¥testdata.dat/D</p>
--

大文字小文字の区別はありません。

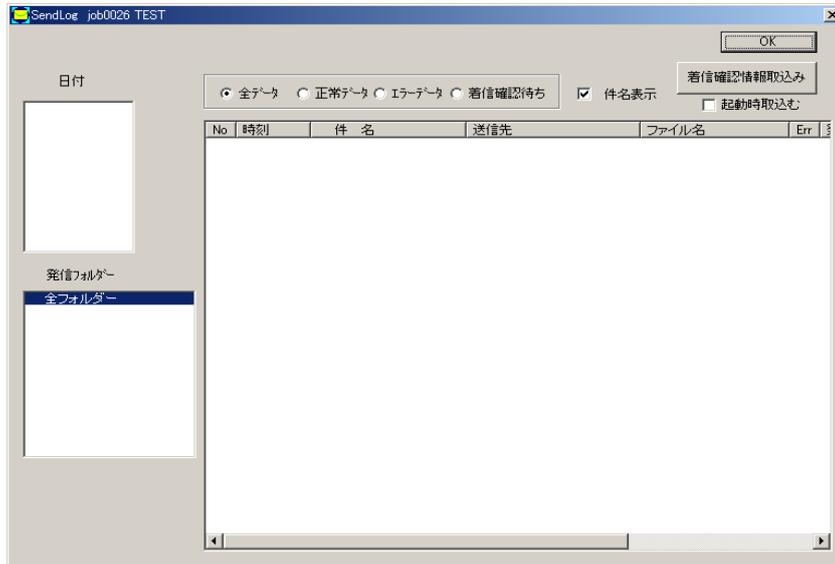
サンプル：

(2) 任意の電文をユーザーが作成し相手担当者にメールを送る方法のサンプルをご参照ください。

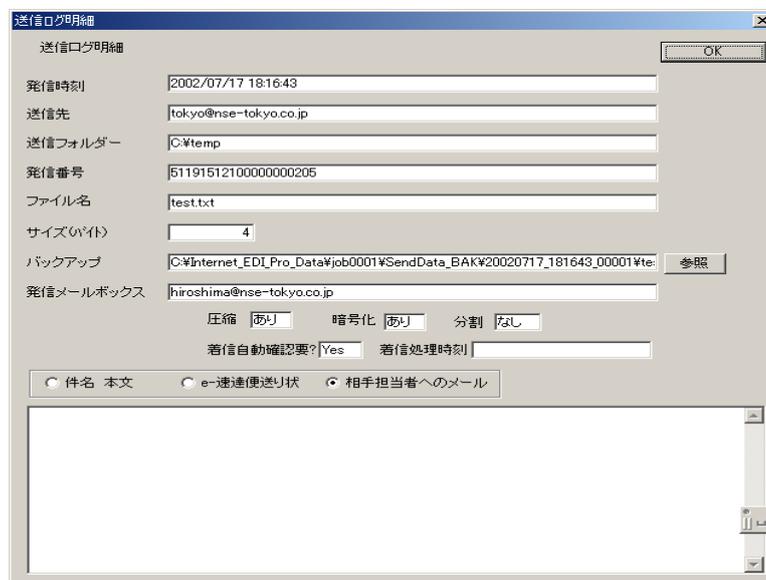
3. 送信ログ照会

送信記録は、送信ログファイルに保管されます。

送信ログは、以下の形式で照会できます。



- ・ 日付を選択すると当日のログが表示されます。
- ・ 正常データ、エラーデータ、着信確認待ちデータだけを選んで表示することができます。
- ・ 「着信確認待ち情報取込み」ボタンをクリックすると相手先より届いた ACK 電文の未処理分を取込みます。
- ・ 送信記録データをダブルクリックすることにより明細が表示されます。
- ・ バックアップファイルの参照ボタンによりバックアップファイルをエクスプローラで確認することができます。



4. 着信データ取込み処理

着信データ取込み： 着信データを取込み受信フォルダーに格納します。

全データ削除後着信データ取込み： 受信フォルダー内全データを削除後着信データを取込み受信フォルダーに格納します。

タイマー設定： 設定された時刻に着信データを取込みます。

その後毎日同時刻に実行するをチェックすると毎日同時刻に実行されます。

常駐型： 受信タスクが常駐し設定のn分毎に着信データを取込みます。

インターバルを小さく設定すると、メールサーバーへの照会負荷が増大するためなるべく大きく指定してください。

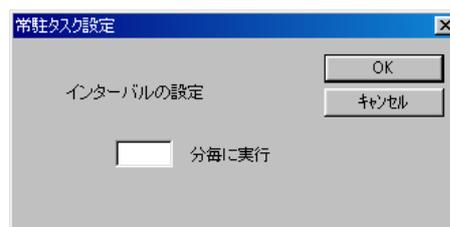
受信サーバーが IMAP4 プロトコルの時、0 を指定することが出来ます。0 を指定することにより、リアルタイム受取モードとなりサーバーにデータが到着すると、すぐ起動されます。



タイマー起動設定



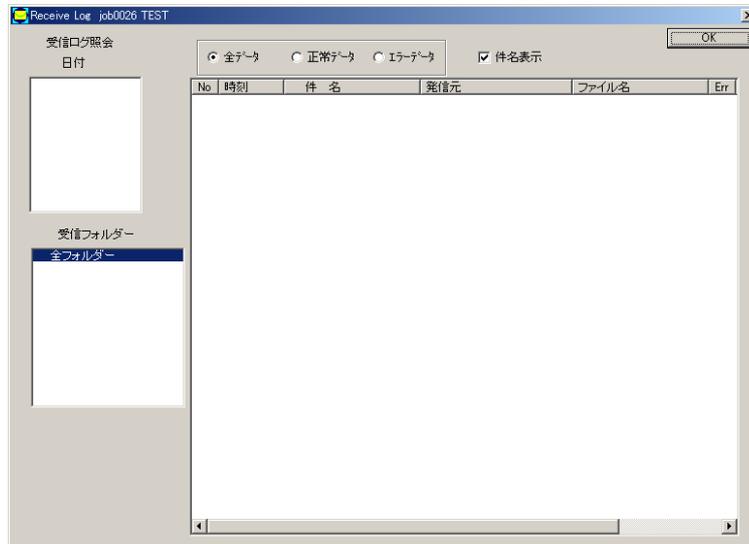
常駐型設定



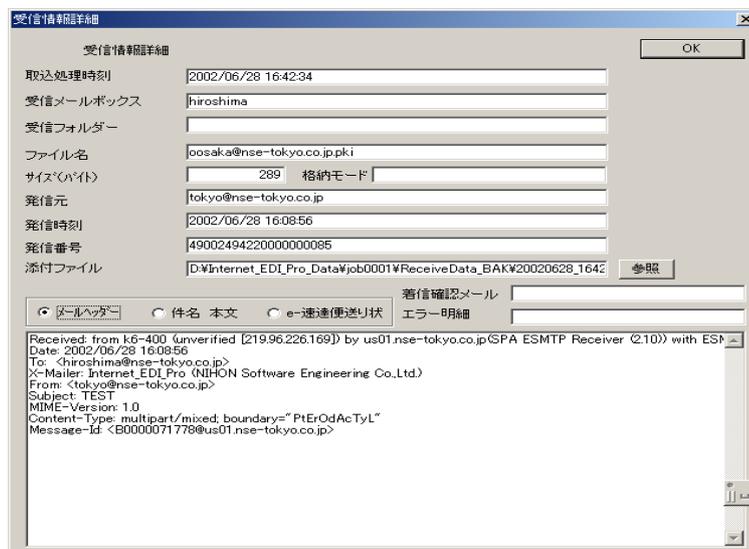
5. 受信ログ照会

受信記録は、受信ログファイルに保管されます。

受信ログは、以下の形式で照会できます。



- ・ 日付を選択すると当日のログが表示されます。
- ・ 正常データ、エラーデータのデータだけを選んで表示することができます。
- ・ 件名表示チェックボックスをチェックすると受信フォルダーに項目にメールの件名が表示されます。
- ・ 受信記録データをダブルクリックすることにより明細が表示されます。



- ・ バックアップファイルの参照ボタンによりバックアップファイルをエクスプローラで確認することができます。
- ・ メールヘッダー、件名本文、e-速達便送り状の内容が選択により表示されます。

6. 他のプログラムからの起動方法 (e-エクスプレス)

e-エクスプレスは、他のプログラムから起動することができます。

このとき、画面は最小化されて実行されます。

コマンドの形式は以下のとおりです。

<送信処理> パス名¥EDI_Send.exe jobnnnn/option

jobnnnn: 省略可:省略時 job0001 とみなされる。

Option: 小文字でも OK

省略時

送信処理メニュー画面を表示

/S

送信処理起動

/S で起動したときプロセスの戻り値が
セットされます。

詳細は送信プロセスの戻り値一覧表参照

/Tyyyymmddhhnn

タイマー設定起動

yyyy:年 (4桁固定) *1

mm: 月 (2桁固定) *1

dd: 日 (2桁固定) *1

hh: 時 (2桁固定)

nn: 分 (2桁固定)

/Dyyyymmddhhnn

タイマー設定起動

(その後毎日同時刻に起動)

yyyy:年 (4桁固定) *1

mm: 月 (2桁固定) *1

dd: 日 (2桁固定)

hh: 時 (2桁固定)

nn: 分 (2桁固定)

/Inn

常駐型起動

nn: 分毎に起動 (桁数は自由)

(0 を指定するとリアルタイム待受けモードになります。)

*1 yyyymmdd 部分を 00000000 に設定したとき日付指定のない時刻指定になります。 (その時刻になると起動します。)

(注1)Option が正しくないとき送信処理メニュー画面を表示します。

送信プロセスの戻り値一覧表

戻り値	状 態	原 因
0	正常終了	
201	メールサーバーにアクセスできません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 送信メールサーバー名(SMTP)が正しくない。 ・ 送信メールサーバーが稼動していない。
1901	圧縮できません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU資源（メモリー、ディスク）容量不足です。
1902	暗号化ができません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU資源（メモリー、ディスク）容量不足です。
1903	e-エクスプレス送り状ファイルが作成できません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU資源（メモリー、ディスク）容量不足です。
1904	ファイル名による送信ができません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドレス帳の取引先コードとファイル名が合致しません。
1905	相手担当者へメールできません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アドレス帳の取引先コードとファイル名が合致しません。
1906	相手担当者へメールできません。	<ul style="list-style-type: none"> 送信ファイルが正しくない。 ・ テキストファイルではない。 ・ 件名がない。 ・ 本文がない。

/S で起動したとき上記プロセスの戻り値がセットされます。

他のオプションで起動しても戻り値がセットされません。

親プロセスから e-エクスプレスを起動しプロセスの終了を待つとき有効です。

コーディングサンプル参照してください。

なほ、詳しい状況はシステムログに記録されます。

<受信処理>

パス名 ¥EDI_Receive.exe jobnnnn/option

jobnnnn: 省略可: 省略時 job0001 とみなされる。

Option: 小文字でも OK

省略時 受信処理メニュー画面を表示

/R 着信データ取込み処理を行う

/C 全データ削除後着信データを取込む

/R 或いは/C で起動したときプロセスの戻り値が
セットされます。

詳細は受信プロセスの戻り値一覧表参照

/Tyyyyymmddhhnn タイマー設定起動

yyyy:年 (4桁固定) *2

mm: 月 (2桁固定) *2

dd: 日 (2桁固定)

hh: 時 (2桁固定)

nn: 分 (2桁固定)

/Dyyyyymmddhhnn タイマー設定起動

(その後毎日同時刻に起動)

yyyy:年 (4桁固定) *2

mm: 月 (2桁固定) *2

dd: 日 (2桁固定) *2

hh: 時 (2桁固定)

nn: 分 (2桁固定)

/Inn 常駐型起動

nn: 分毎に起動 (桁数は自由)

(IMAP4の時0を指定するとリアルタイム待受けモードになります。)

*2 yyyyymmdd 部分を 00000000 に設定したとき日付指定のない時刻指定になります。
(その時刻になると起動します。)

(注)Option が正しくないとき受信処理メニュー画面を表示します。

受信プロセスの戻り値一覧表

戻り値	状況	原因
0	正常終了	
0301	受信できません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受信メールアドレスが正しくない。 ・ パスワードが正しくない。 (大文字小文字の区別があります。) ・ メールサーバー名が正しくない。 ・ メールサーバーが稼動していない。
2901	e-エクスプレス便送り状が読めません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU資源 (メモリー、ディスク) 容量不足です。

/R 或いは/C で起動したとき上記プロセスの戻り値がセットされます。

他のオプションで起動しても戻り値がセットされません。

親プロセスから e-エクスプレスを起動しプロセスの終了を待つとき有効です。

業務APの自動起動を設定しているときそのプロセスの終了も待ちます。

コーディングサンプル参照してください。

なほ、詳しい状況はシステムログに記録されます。

<メニュー画面表示処理> パス名¥EDI_Pro.exe jobnnnn

jobnnnn: 省略可:省略時 job0001 とみなされる。

<送信ログ表示処理> パス名¥EDI_Send_Log.exe jobnnnn/P

jobnnnn: 省略可:省略時 job0001 とみなされる。

<受信ログ表示処理> パス名¥EDI_Receive_Log.exe jobnnnn/P

jobnnnn: 省略可:省略時 job0001 とみなされる。

<システムログ表示処理> パス名¥EDI_System_Log.exe jobnnnn/P

jobnnnn: 省略可:省略時 job0001 とみなされる。

<アドレス帳 CSV エクスポート> パス名¥EDI_Address_Book.exe

jobnnnn /CSVEX/エクスポートファイルパス(Full Path)

エクスポートファイルパスがない時あるいはファイルが存在しないときファイルダイアログを表示します。

プロセスのリターンコード

0 : 正常終了

1 : エラーあり

下記のファイルにエラー詳細があります。(毎回上書きされます。)

パス名¥ jobnnnn ¥Log¥Address_Book_CSV_Export.txt

<アドレス帳 CSV インポート> パス名¥EDI_Address_Book.exe

jobnnnn /CSVIN/インポートファイルパス(Full Path)

インポートファイルパスがない時あるいはファイルが存在しないときファイルダイアログを表示します。

プロセスのリターンコード

0 : 正常終了

1 : エラーあり

下記のファイルにエラー詳細があります。(毎回上書きされます。)

パス名¥ jobnnnn ¥Log¥Address_Book_CSV_import.txt

(注) アドレス帳の CSV レイアウトはセットアップマニュアルをご覧ください。

<ログの CSV エクスポート> パス名 ¥ EDI_Log_CSV_Export.exe

業務 No/ログ種別/出力ファイルパス/日付/デリミター

業務 No : jobnnnn

ログ種別 :

SystemLog : システムログ

SendLog : 送信ログ

ReceiveLog : 受信ログ

出力ファイルパス : フルパスで指定

日付 : yyyyymmdd 形式 例 : 20050801 (2005年8月1日)

デリミター : 指定なし : CSV T : TSV (tab 区切り)

例 : job0001/SendLog/C:¥temp¥SendLog/20050508

2005年5月8日の送信ログが C:¥temp¥SendLog に CSV 形式で出力される。

(注1) パラメータは大文字小文字の区別はありません。

(注2) Tab 区切り出力 (TSV) を指定したとき、データ中の改行コードは垂直タブ (16 進 '0B') に変換されます。

プロセスのリターンコード

0 : 正常終了

1 : エラー発生

システムログのフォーマット

No	項目名	備考
1	年月日時刻	yyyyymmdd_hhmmss
2	JOB No	jobnnnn
3	処理コード	別紙一覧表参照
4	ログ区分	システム : システムに関するログ 送信 : 送信に関するログ 受信 : 受信に関するログ
5	処理	オペレーションの詳細
6	結果	結果の明細
7	対策	採るべき対策
8	エラー	正常時 : "" エラー : "Err"

システムログ一覧表 <正常>

ログ区分	処理コード	内容	エラー
送信	1101	手動で全件送信処理を起動。	
送信	1103	自由送信処理起動。	
送信	1201	タイマー設定送信処理起動。	
送信	1209	タイマー設定送信タスク中止。	
送信	1309	常駐送信タスク中止。	
送信	1202	タイマーにより送信タスク起動。n 件送信。	
送信	1302	常駐タスクにより送信。n 件送信。	
送信	1401	送信タスクをバッチ起動。	
送信	1501	バッチ起動により送信処理タイマー設定。	
受信	2101	手動で受信処理起動。	
受信	2102	手動で受信処理起動。(全データ削除後)	
受信	2201	受信処理タイマー設定。	
受信	2209	受信処理タイマー設定タスク中止。	
受信	2203	リアルタイム待ち受け受信処理完了。	
受信	2309	受信常駐タスク中止。	
受信	2202	タイマーにより受信タスク起動。	
受信	2302	受信常駐タスク起動。	
受信	2401	バッチにより受信処理起動。	
受信	2501	バッチにより受信処理タイマー設定。	

システムログ一覧表 <エラー>

送受	コード	内容	エラー
システム	0201	送信できません。	Err
システム	0301	受信できません。	Err
システム	1901	送信時 圧縮できません。	Err
システム	1902	送信時 暗号化できません。	Err
システム	1903	送信時 送り状ファイルが作成できません。	Err
システム	1904	ファイル名による送信時、取引先コードが登録されていないか EDI メールアドレスがありません。	Err
システム	1905	相手担当者への送信時エラー。アドレス帳から担当者メールアドレスが検索できません。	Err
システム	1906	相手担当者への送信時エラー。送信ファイルが正しくありません。 テキストファイルではない、件名がない、本文がない等	Err
受信	1907	受信時 ACK Exchange or Confirmation mail が送れない。	Err
システム	2901	受信時 ACK ファイルが作れない。	Err
システム	2902	受信時 認証エラーです。	Err
システム	2903	受信時 解凍できません。	Err
システム	2904	添付ファイルが格納できません。 日本語(JIS)以外のエンコード方式のメールに全角ファイル名が添付された可能性があります。	Err

送信ログのフォーマット

No	項目名	備考
1	年月日時刻	yyyymmdd_hhmmss
2	ログタイプ	常に 0100
3	ログタイプ明細	常に 0000
4	送信先	
5	発信フォルダー	
6	発信 NO	
7	ファイル名	
8	ファイルサイズ	
9	バックアップフォルダ	
10	発信元	
11	エラー	
12	ACK 要	
13	着信時刻	
14	e-Express 送り状	
15	担当者にメール (発信元)	
16	担当者にメール (発信先)	
17	担当者にメール(件名)	
18	担当者にメール(本文)	
19	担当者にメール(添付ファイル)	
20	件名	
21	本文	
22	添付ファイル	

送信ログは送信に成功したファイルについてのみ記録されます。

送信ログにはエラーはありません。送信時エラーが発生したときシステムログに記録されます。(データは送信されず残ります。)

ログタイプ：常に 0100

ログタイプ明細：常に 0000

受信ログのフォーマット

No	項目名	備考
1	年月日時刻	yyyymmdd_hhmmss
2	ログタイプ	0500 正常 0501 異常
3	ログタイプ明細	
4	受信メールボックス	
5	受信フォルダ	
6	発信 NO	
7	ファイル名	
8	ファイルサイズ	
9	格納モード	
10	バックアップ	
11	受信情報	
12	メッセージ ID	
13	発信時刻	
14	送信先	
15	発信人 EDI アドレス	
16	着信確認メッセージ	
17	件名	
18	メールヘッダー	
19	本文	
20	エラー明細	
21	e-Express 送り状	

受信ログエラー明細

ログタイプ	ログタイプ 明細	内容	エラー明細
0500	0000	正常受信。	“”
0501	0001	着信許可エラー。	エラーの内容
0501	0002	アドレス帳にない相手からのメール。	エラーの内容
0501	0003	認証エラー。	エラーの内容
0501	0004	圧縮ファイルの解凍ができない。	エラーの内容
0501	0005	圧縮ファイルの解凍に必要なライセンスがない。	エラーの内容
0501	0006	暗号ファイルの復号化に必要なライセンスがない。	エラーの内容
0501	0007	相手ライセンスがこちらと重複しています。	エラーの内容
0501	0008	送信 No がダブっている。 メールサーバー障害、2 重受信	エラーの内容
0501	0011	e-Express 以外からのメールです。	エラーの内容

サンプルコーディング (e-エクスプレス)

<Visual Basic>

<e-エクスプレスを起動し親プロセスと非同期に稼動する場合>

```
DimRetVal
RetVal = Shell _
("C:¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥Internet_EDI_Pro¥¥Program¥¥edi_send.exe Job0001/S ", 1)
```

<e-エクスプレスを起動しその終了を待ち、戻り値を得る場合>

```
Dim WSH, i
Set WSH = CreateObject("WScript.Shell")
i=WSH.Run("""C:¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥Internet_EDI_Pro¥¥PROGRAM¥¥
EDI_send.exe"" /S",1, True)
```

(注) Visual Basic の参照設定で以下のライブラリーファイルをチェックしておいてください。

1. Microsoft scripting runtime
2. Windows Script Host Object Model

<Visual C++>

<e-エクスプレスを起動し親プロセスと非同期に稼動する場合>

```
HINSTANCE iret =
ShellExecute(m_hWnd,"open",
"C:¥¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥¥Internet_EDI_Pro¥¥¥Program¥¥¥edi_send.exe",
"Job0001/S",NULL,SW_SHOW);
```

<e-エクスプレスを起動しその終了を待ち、戻り値を得る場合>

```
#include <process.h>

int i = _spawnl(_P_WAIT,
"C:¥¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥¥Internet_EDI_Pro¥¥¥Program¥¥¥edi_send.exe",
"edi_send.exe", "/S", NULL);
```

7. 他のプログラムからの起動方法 (MailConnect)

MailConnect は、他のプログラムから起動することができます。

このとき、画面は最小化されて実行されます。

(注) Job No は mcj0001,mcj0002 ,mcj0003 と自動的に採られます。

コマンドの形式は以下のとおりです。

<送信処理> パス名¥EDI_Send_MailConnect.exe mcjn***option

mcjn***: 省略可: 省略時 mcj0001 とみなされる。

Option: 小文字でも OK

省略時 送信処理メニュー画面を表示

/S 送信処理起動
/S で起動したときプロセスの戻り値が
セットされます。

詳細は送信プロセスの戻り値一覧表参照

/Tyyyymmddhhnn タイマー設定起動
yyyy:年 (4桁固定) *1
mm: 月 (2桁固定) *1
dd: 日 (2桁固定) *1
hh: 時 (2桁固定)
nn: 分 (2桁固定)

/Dyyyymmddhhnn タイマー設定起動
(その後毎日同時刻に起動)
yyyy:年 (4桁固定) *1
mm: 月 (2桁固定) *1
dd: 日 (2桁固定)
hh: 時 (2桁固定)
nn: 分 (2桁固定)

/Inn 常駐型起動
nn: 分毎に起動 (桁数は自由)

(0 を指定するとリアルタイム待受けモードになります。)

*1 yyyymmdd 部分を 00000000 に設定したとき日付指定のない時刻指定になります。 (その時刻になると起動します。)

(注1) Option が正しくないとき送信処理メニュー画面を表示します。

送信プロセスの戻り値一覧表

戻り値	状 態	原 因
0	正常終了	
201	メールサーバーにアクセスできません。	<ul style="list-style-type: none"> . 送信メールサーバー名(SMTP)が正しくない。 . 送信メールサーバーが稼動していない。
1901	圧縮できません。 (e-エクスプレスのみ)	. CPU資源 (メモリー、ディスク) 容量不足です。
1902	暗号化ができません。 (e-エクスプレスのみ)	. CPU資源 (メモリー、ディスク) 容量不足です。
1903	e-エクスプレス送り状ファイルが作成できません。 (e-エクスプレスのみ)	. CPU資源 (メモリー、ディスク) 容量不足です。
1904	ファイル名による送信ができません。	. アドレス帳の取引先コードとファイル名が合致しません。
1905	相手担当者へメールできません。	. アドレス帳の取引先コードとファイル名が合致しません。
1906	相手担当者へメールできません。	<ul style="list-style-type: none"> 送信ファイルが正しくない。 . テキストファイルではない。 . 件名がない。 . 本文がない。

/S で起動したとき上記プロセスの戻り値がセットされます。

他のオプションで起動しても戻り値がセットされません。

親プロセスから MailConnect を起動しプロセスの終了を待つとき有効です。

コーディングサンプル参照してください。

なほ、詳しい状況はシステムログに記録されます。

<受信処理>

パス名 ¥EDI_Receive_MailConnect.exe mcjnynn/option

mcjnynn: 省略可: 省略時 mcj0001 とみなされる。

Option: 小文字でも OK

省略時

受信処理メニュー画面を表示

/R

着信データ取込み処理を行う

/C

全データ削除後着信データを取込む

/R 或いは /C で起動したときプロセスの戻り値が
セットされます。

詳細は受信プロセスの戻り値一覧表参照

/Tyyyymmddhhnn

タイマー設定起動

yyyy:年 (4桁固定) *2

mm:月 (2桁固定) *2

dd:日 (2桁固定)

hh:時 (2桁固定)

nn:分 (2桁固定)

/Dyyyymmddhhnn

タイマー設定起動

(その後毎日同時刻に起動)

yyyy:年 (4桁固定) *2

mm:月 (2桁固定) *2

dd:日 (2桁固定) *2

hh:時 (2桁固定)

nn:分 (2桁固定)

/Inn

常駐型起動

nn:分毎に起動 (桁数は自由)

(IMAP4 の時 0 を指定するとリアルタイム待受けモードになります。)

*2 yyyymmdd 部分を 00000000 に設定したとき日付指定のない時刻指定になります。 (その時刻になると起動します。)

(注)Option が正しくないとき受信処理メニュー画面を表示します。

受信プロセスの戻り値一覧表

戻り値	状況	原因
0	正常終了	
0301	受信できません。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 受信メールアドレスが正しくない。 ・ パスワードが正しくない。 (大文字小文字の区別があります。) ・ メールサーバー名が正しくない。 ・ メールサーバー稼働していない。
2901	e-エクスプレス送り状が読めません。 (e-エクスプレスのみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・ CPU資源 (メモリー、ディスク) 容量不足です。

/R 或いは/C で起動したとき上記プロセスの戻り値がセットされます。

他のオプションで起動しても戻り値がセットされません。

親プロセスから MailConnect を起動しプロセスの終了を待つとき有効です。

業務APの自動起動を設定しているときそのプロセスの終了も待ちます。

コーディングサンプル参照してください。

なほ、詳しい状況はシステムログに記録されます。

<メニュー画面表示処理> パス名¥EDI_Pro_MailConnect.exe mcjnynn
mcjnynn: Job No 省略不可

<送信ログ表示処理> パス名¥EDI_Send_Log.exe mcjnynn/P
mcjnynn: Job No 省略不可

<受信ログ表示処理> パス名¥EDI_Receive_Log.exe mcjnynn/P
mcjnynn: Job No 省略不可

<システムログ表示処理> パス名¥EDI_System_Log.exe mcjnynn/P
mcjnynn: Job No 省略不可

<アドレス帳 CSV エクスポート> パス名¥EDI_Address_Book.exe

mcjnntnn/CSVEX/エクスポートファイルパス(Full Path)

エクスポートファイルパスがない時あるいはファイルが存在しないときファイルダイアログを表示します。

プロセスのリターンコード

0： 正常終了

1： エラーあり

下記のファイルにエラー詳細があります。(毎回上書きされます。)

パス名¥ mcjnntnn¥Log¥Address_Book_CSV_Export.txt

<アドレス帳 CSV インポート> パス名¥EDI_Address_Book.exe

mcjnntnn / CSVIN/インポートファイルパス(Full Path)

インポートファイルパスがない時あるいはファイルが存在しないときファイルダイアログを表示します。

プロセスのリターンコード

0： 正常終了

1： エラーあり

下記のファイルにエラー詳細があります。(毎回上書きされます。)

パス名¥ mcjnntnn ¥Log¥Address_Book_CSV_import.txt

(注) アドレス帳 CSV レイアウトはセットアップマニュアルをご覧ください。

<ログの CSV エクスポート> パス名¥ EDI_Log_CSV_Export.exe

業務 No/ログ種別/出力ファイルパス/日付/デリミター

業務 No : mcjnynn

ログ種別 :

SystemLog : システムログ

SendLog : 送信ログ

ReceiveLog : 受信ログ

出力ファイルパス : フルパスで指定

日付 : yyyyymmdd 形式 例 : 20050801 (2005 年 8 月 1 日)

デリミター : 指定なし : CSV T : TSV (tab 区切り)

例 : mcj0001/SendLog/C:¥temp¥SendLog/20050508

2005 年 5 月 8 日の送信ログが C:¥temp¥SendLog に CSV 形式で出力される。

(注 1) パラメータは大文字小文字の区別はありません。

(注 2) Tab 区切り出力 (TSV) を指定したとき、データ中の改行コードは垂直タブ
(16 進 '0B') に変換されます。

プロセスのリターンコード

0 : 正常終了

1 : エラー発生

システムログのフォーマット&内容

e-Express をご参照ください。同一フォーマット&内容です。

送信ログのフォーマット&内容

e-Express をご参照ください。同一フォーマット&内容です。

受信ログのフォーマット

e-Express をご参照ください。同一フォーマット&内容です。

サンプルコーディング (MailConnect)

<Visual Basic>

<MailConnect を起動し親プロセスと非同期に稼動する場合>

```
Dim RetVal
RetVal = Shell _
("C:¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥Internet_EDI_Pro¥¥Program¥¥edi_send_MailConnect.exe
mcj0001/S ", 1)
```

<MailConnect を起動しその終了を待ち、戻り値を得る場合>

```
Dim WSH, i
Set WSH = CreateObject("WScript.Shell")
i=WSH.Run("""C:¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥Internet_EDI_Pro¥¥PROGRAM¥¥
EDI_send_MailConnect.exe"" /S",1, True)
```

(注) Visual Basic の参照設定で以下のライブラリーファイルをチェックしておいてください。

1. Microsoft scripting runtime
2. Windows Script Host Object Model

<Visual C++>

<MailConnect を起動し親プロセスと非同期に稼動する場合>

```
HINSTANCE iret =
ShellExecute(m_hWnd,"open",
"C:¥¥¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥¥¥Internet_EDI_Pro¥¥¥¥Program¥¥¥¥
edi_send_MailConnect.exe","mcj0001/S",NULL,SW_SHOW);
```

<MailConnect を起動しその終了を待ち、戻り値を得る場合>

```
#include <process.h>
int i = _spawnl( _P_WAIT,
"C:¥¥¥¥ GlobalNetwork_Software¥¥¥¥Internet_EDI_Pro¥¥¥¥Program¥¥¥¥
edi_send_MailConnect.exe", "edi_send_MailConnect.exe", "/S", NULL );
```

以 上